

情 報

エルコジュール単独のもの、エルコジュールにシリコン印象材で裏装したもの、トレー用レジンにシリコン印象材を裏装したものを3種類製作した。模擬被験者にこれらの補助具を試用した結果、最も硬いトレー用レジン製装着用補助具と、最も小さいエルコジュール単独の撤去用補助具が高い評価を得た。次に、動画による評価で、片麻痺を想定した非利き手のみでの着脱操作と補助具を使用した2条件で操作時間と手指の動きを比較した。その結果、操作時間は補助具を使用した方がわずかに短かったものの、手指の動きは補助具を使った方がシンプルで、鉤歯などへの負担も少ないことが示された。また、補助具を用いた方が容易に義歯を着脱できるという評価が得られた。

第45回：平成19年7月19日

Silicone-Model-Systemを応用した 下顎義歯製作

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 8 回生
真島 祐太郎

患者は80代男性で、顎位の不安定に加え、義歯の不適合による粘膜面の疼痛から義歯新製を希望した。義歯の不適合以外には患者からの訴えがないことから、使用義歯の形態を再現できるSilicone-Model-Systemでシリコン模型を製作した。次に、バイトチェッカー(ブラックシリコン咬合接触検査剤, GC)を塗布し、旧義歯の床外形、排列位置をより精密に再現したシリコンコアを採得した。また、完成義歯のイメージを容易にするため、シリコン模型のコア人工歯部に歯冠色レジンを、義歯床部には常温重合レジンを流し込み、複製義歯を製作した。複製義歯は旧義歯の情報を新義歯に再現することに十分活用できるので、それにより患者さんの違和感が少ない新義歯を製作する上で有益であることが理解できた。

第46回：平成19年11月13日

顎堤の吸収が著しい下顎義歯の製作

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 8 回生
一ノ瀬 徹

患者は79歳男性で、不安定な下顎義歯が原因で根面キャップが装着された下顎両側犬歯周囲の歯肉に痛みがあった。また、義歯床修理のために築盛された即時重合レジンの突出部に対して舌感の不良を訴えていた。

下顎顎堤は骨吸収が大きく、義歯の安定が不良であったので、新義歯はバウンドラインを基準に臼歯部排列を行うことで舌房を確保し、頬粘膜の筋圧作用が得られる床翼形態とすることで、義歯の安定化を図った。また、下顎両側犬歯の動揺が強く、周囲の歯肉に炎症があったので、床内面のリリース量を十分に行いながら、床舌側の外形の突出度にも注意した。義歯完成後は下顎両側犬歯周囲の歯肉の疼痛が消退し、患者の舌の辺りがスッキリしたという意見から、患者の訴えは改善できたと思われた。

第47回：平成19年11月13日

唾液検査方法について

歯科技工士学科専攻科 生体技工専攻 8 回生
北野 愉香莉

日常の臨床技工で、歯科技工士の視点から義歯の汚れに着目した。義歯に付着する汚れは唾液との関わりが大きく、特に口腔乾燥症の場合、唾液分泌量が低下し義歯に汚れが付着し易い。今回は、ロールワッテで5分間の安静唾液および刺激唾液を採取する手法を紹介した。安静唾液は下顎臼歯部と舌下腺部にロールワッテを置いて採取する。また、刺激唾液はロールワッテを咀嚼し舌下腺部のふき取りを行い採取する。これらの方法は特別な器具や材料を必要とせず、診療室にあるもので対応できる。診療の場に立ち会う歯科技工士が検査に協力でき、清掃性に配慮した義歯製作などの情報を入手する上で唾液検査は重要であることがわかった。